

研究分野	普及・啓蒙	部名	漁場環境部
研究課題名	試験船体験航海事業		
予算区分	県単		
試験研究実施年度・研究期間	H.14～H.18		
担当	佐藤 晋一		
協力・分担関係	西海岸三町村水産振興協議会		

〈目的〉

近年、小学生を対象に海洋や漁業に関する様々な体験学習を通して理解と興味を持たせ、科学する心を育み、また、将来の漁業及び関連産業の後継者育成と確保を図ることを目的として、試験船による体験航海の要望が増加してきている。

これらに対応するため、試験船東奥丸により体験航海を実施する。

〈事業の内容〉

- ・体験航海を行った試験船 東奥丸（140トン）
- ・体験航海の回数 2回

〈結果の概要・要約〉

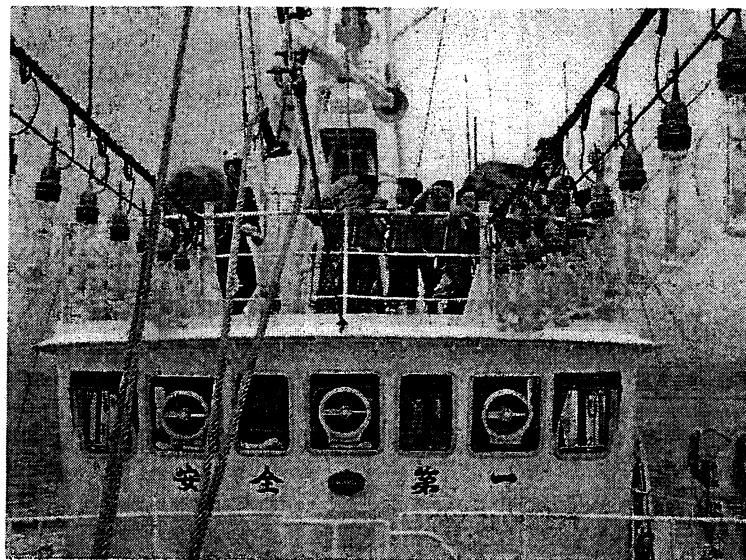
1. 体験航海の実施日及び航海数
平成16年7月17日及び8月4～5日で、合計3日、2航海を実施した（次ページの表参照）。
2. 体験航海の内容
体験航海または海洋観測実習
3. 体験航海の参加者数
小人22名、大人13名 計35名
4. その他
 - ・7月17日に鰺ヶ沢地先で行った体験航海では観測（透明度の観測）見学も行った。入出港時の乗船者の待機状況も船員の指示を良く聞いていた。
 - ・8月4～5日に鰺ヶ沢と北海道江差町間で行った体験航海では西海岸三町村水産振興協議会で募集した児童が参加した。江差町では現地の「夏の冒険王クラブ」との交流会等を行った。また、水産業体験学習（地引網または磯の生物観察）を行う予定だったが、悪天候のため中止となった。

〈今後の問題点〉

- ・体験航海は試験船の運航スケジュールを調整して行っている関係上その年間回数には限りがある。これまで西海岸地区でのみ行ってきたが、今後は他の海域にも広げていくことが考えられる。その際にも、体験航海の参加者をどのように決めるかが今後の課題となる。
- ・泊りがけのスケジュールの場合、船内に宿泊することも予想されるので、部屋の確保も今後の課題となる。
- ・現在は大人用の救命胴衣を使用しているが、小人用の救命胴衣を整備していくことが求められる。

体験航海の実施状況(平成16年度)

No.	1	2	合計
団体名	鰺ヶ沢町教育課	西海岸三町村水産振興協議会	
人数(小人)	8	14	22
人数(大人)	6	7	13
小計	14	21	35
実施日	7月17日(土)09時30分～11時	8月4日(水)08時から5日(木)16時	
内容	体験航海	体験航海・海洋観測実習・江差町との交流	
摘要	航海時間は1時間半程度。 やや波があったが、船酔いした のは2名程度。 入出港時の乗船者の待機状況 も船員の指示を良きいていた。	鰺ヶ沢港入出港、北海道江差町に宿泊。 江差町での交流会。 2日目は低気圧接近のため、行事を省略。	



ブリッジの上の甲板に立ち、高いところからの見学



船内の食堂に集まって昼食